

シナリオ 6



緑山小学校
高野教頭先生

美穂が通う緑山小学校の校庭

地震発生 30 分後



【場面設定】

美穂は、担任の松本先生の指示でクラスの間々と校庭へ避難する途中、弟の翔太が泣きながら担任の先生に連れられ避難しているのを見つけた。

「翔太だいじょうぶ？」と声をかけたが、翔太はボーっとしていて気がつかなかったようだ。

ふと東の空を見上げると黒い煙がもくもくと昇っているのが見え、つめたい粉雪が美穂の頬に舞い落ちてきた。

美穂は、「ふうー。さぶ」と思わず膝まずいてしまった。

校庭では、保健の先生が児童の手当をしていた。

松本先生は、ケガをした3人の児童を保健の先生に引渡し、クラスの点呼を開始した。

幸いケガをした3人も軽いケガだったようで、点呼の途中で戻ってきたが、頭や手に巻いた白い包帯が痛々しく見えた。

教頭の高野は、このような大惨事の際に校長の不在をうらめしく思ったが、今は自分がこの学校の総責任者だと気持ちを奮い立たせた。

何人かの先生と打合せをしたのち、高野は、意を決して朝礼台に立った。

【議論のポイント】

- ・自分が、主人公（高野教頭）になったつもりで、状況をイメージし、このあとどのような指示を行うべきなのでしょう。
- ・児童の引渡しや安全確保はどうあるべきなのでしょう。

シナリオ 6 続編

美穂が通う緑山小学校の校庭

～児童の処遇方針決定まで

【行動シミュレーション】

教頭の高野は、子どもたちの不安を少しでもやわらげるため、いつもと変わらぬ口調で、落ち着いて、ゆっくりと話し始めた。「皆さん、地域に大きな地震が発生しました。ケガをした友だちもいますが、幸い命に関わるようなことはありませんでした。」

児童の不安解消のため状況説明しましょう。

学校は今のところ大きな被害がないと思いますが、停電で授業を続けることはできなくなりました。皆さんもおうちのことが心配だとは思いますが、街の被害状況が不明ですので、今しばらく学校に残ってもらいます。

すぐに保護者の方々が駆けつけてくれますので、心配しないで、先生の指示に従ってください。」と児童に現在の状況について説明し、もうしばらくこのまま校庭で待機するように伝えた。

児童の不安感をなくすため、保護者が迎えに来るという安心感をもたせましょう。

朝礼台を降りた高野は、すぐに教師全員

を集め、指示をだした。

「吉田先生と加藤先生は、各教室、体育館の被害状況を調査し、報告してください。」

施設の被害状況を調べましょう。

「岡村先生と菅長先生は、児童引渡しのための受付準備をお願いします。」

地域の住民が避難してくるかもしれません。

児童引渡し及び避難場所開設準備をしましょう。

「合田先生と高田先生は、避難者の受け入れの準備にとりかかってください。」

小学校は、地域の拠点避難所になっていますので、あらかじめ毛布やレジャーシートが保管されています。

被害がなければ、体育館に收容します。」

「中村先生と中別府先生は、体育館倉庫に毛布が備蓄されていますので、取ってきて、児童に渡してください。」

「堂本先生は、引き続きケガをしている生徒の処置を



お願いします。」

「各担任の先生方、**余震があるので今しばらく校庭で待機**する必要があります。

児童の世話をお願いします。」

一応、思いつくかぎりの指示をしたつもりの高野だが、目をつぶり、「まだやることがあるはずだ。」と自問自答した。

児童の健康管理や余震に気をつけましょ

携帯電話より、メールの方が繋がりやすいといわれています

ポケットから**携帯電話**を取り出し、校長と**教育委員会に電話**をかけたがどちらもつながらなかった。

少し考えたあと、もう一度、それぞれにメールを打った。